

山仲間アルプの活動に参加させていただいて

R . K

私は、12月7日に行われた、石老山の清掃登山に参加させていただきました。今回は二回目の参加ということで、前回様々なことを教えていただいたので、障害者の方々の補助の仕方などは前回に比べてスムーズにできたと思います。

また、今回も前回同様に視覚の障害を持つ方々のエネルギーとコミュニケーション能力に驚かされました。今回の石老山の登山は、前回の高鈴山と比べると、上りの道は比較的登りやすい道が続いていたのですが、下りの道が格段に難しいものでした。前回も、山仲間アルプの会員の方々に「下りの方が、補助をするのはたいへんだよ。」と言われていたのですが、今回の下りの道でそのことを実感させられました。下りの道は、自分もブレーキをかけながら一步一步下っていくため、どうしても視覚障害者の方との距離が近くなってしまい、段差などを降りるときにも迷惑をかけてしまいました。

また、私が滑ってしまった時には、後ろにいる視覚障害者の方まで滑ってしまうので大きな責任を感じました。実は、私は何度か滑ってしまったのですが、視覚障害者の方は笑顔で励ましてくれました。その心の広さも見習わなければならいと感じました。

今回の石老山の登山には、山仲間アルプの会員さん、私たち立教大学の大学生だけではなく、小学五年生の女の子二人も参加されていました。子供登山教室に参加している子たちということで、常に先頭を歩いていました。疲れた様子も見せず、とても元気がよかったのでとても感心しました。この女の子たちには体力や登山のスキルにも感心させられたのですが、そのほかにも感心させられることが多くありました。はじめに新宿駅で会った時には、さすがに緊張していたのか話しかけてはこなかったのですが、電車にのってこちらから挨拶してからは、女の子たちから積極的に話しかけてくるようになりました。私は、この女の子たちと同じ年齢のときには年上の人の中に入ったり、積極的に話しかけたりは出来なかったのですが、この子たちのコミュニケーション能力に感心させられました。

このコミュニケーション能力の高さは、この山仲間アルプの方々の影響が強いと思います。Aさんを始め、会員の皆様、そして視覚障害者の方々が積極的に話しかけて来てくださるので、気負いすることもなくコミュニケーションをとれるのでコミュニケーション能力が高くなったのだと思います。

また、この女の子たちのような年齢から障害を持つ方々と触れ合っていくことはとても良いことだと思います。身近に障害をもつ方々がいる環境が当たり前だと思える人が増えてくれば、バリアフリーの社会の構築にも役だってくると思います。私自身の勝手な希望としては、この女の子たちがこれからも山仲間アルプの活動と触れ合い続け、さまざまなことを感じながら福祉に興味を持ってもらい、将来は、障害を持つ人が生きやすい社会をつくってくれたらいいなあ、と思いました。そして、そこで私と再開できたらうれしいです。